

慢性膵炎には体格別に治療

Q 四十一歳、女性。一〇年近く前から食後に上腹部が痛み、内科の検査の結果、慢性膵炎（すいえん）と診断されました。以前はアルコールが好ましかったが今は飲みません。いくつかの薬をもらいましたが今は飲みません。いくつかの薬をもらいましたが今は飲みません。いくつかの薬をもらい、食事の気をつけていますがなかなか良くなりません。

A 男性の慢性膵炎には美食家でアルコールの飲み過ぎによる場合が多いが、近年女性の慢性膵炎も増えている。激しい痛みを伴う急性膵炎には現代医療が効果的だが、種々の症状を示す慢性膵炎には漢方治療が有効な場合が少なくない。

膵炎の特徴は上腹部痛、下痢、体重減少など。痛みが背中に放散すること、不消化便、腹満感、

気分の落込み込み等もよく見られる。漢方では頑健な体格の場合と、きゃしゃな場合に分けて治療する。

頑健型の人で上腹部が張って痛む場合は柴胡桂枝湯（さいこけいしとう）をまず勧める。芍薬甘草湯（しゃくやくかんそうとう）を併用すると効果が増すこともある。ストレスや抑うつ傾向を伴う時は四逆散（しぎやくさん）が良い。

きゃしゃ型で痛みがある場合は安中散（あんちゆうさん）が第一。腹壁が薄く、ガスの膨満によつて痛むものには大建中湯（だいけんちゅうとう）が良い。ガスが張ってろっ骨部が痛むものには良枳湯（りょうきとう）、下痢を主とする場合には人参湯（にんじんとう）、真武湯（しんぶとう）等がよく用いられる。